

一イチ 朝アサ 相アイ 見ミ 面オモテ 喜ヨシ 氣キ 勤ウツカヘ 皇クワ 天テン 七シチ 歲サイ 生イキ 離リ 母ハニ 參ニ 高タカシ 五イハ 十ジウ 年ネン

曾卷

山東兗州府嘉祥縣の
孔子の弟子曾子のえ
家イシずぐりきれど道ミチはま
あひて万統マントウの徳トクはつと

三

初捐總方咳

見ミ心ココロ痛イタ不ズ禁ム

員イホタ
薪タキ、ヲカ
歸カヘ
未イニタ
晚スガ

膏ミツ一肉ニク至ミ一情シヨウ一深フカシ

た・一 何處までも
母指 彼方へも曾々
ろい
が、あつて人さうなりきれ

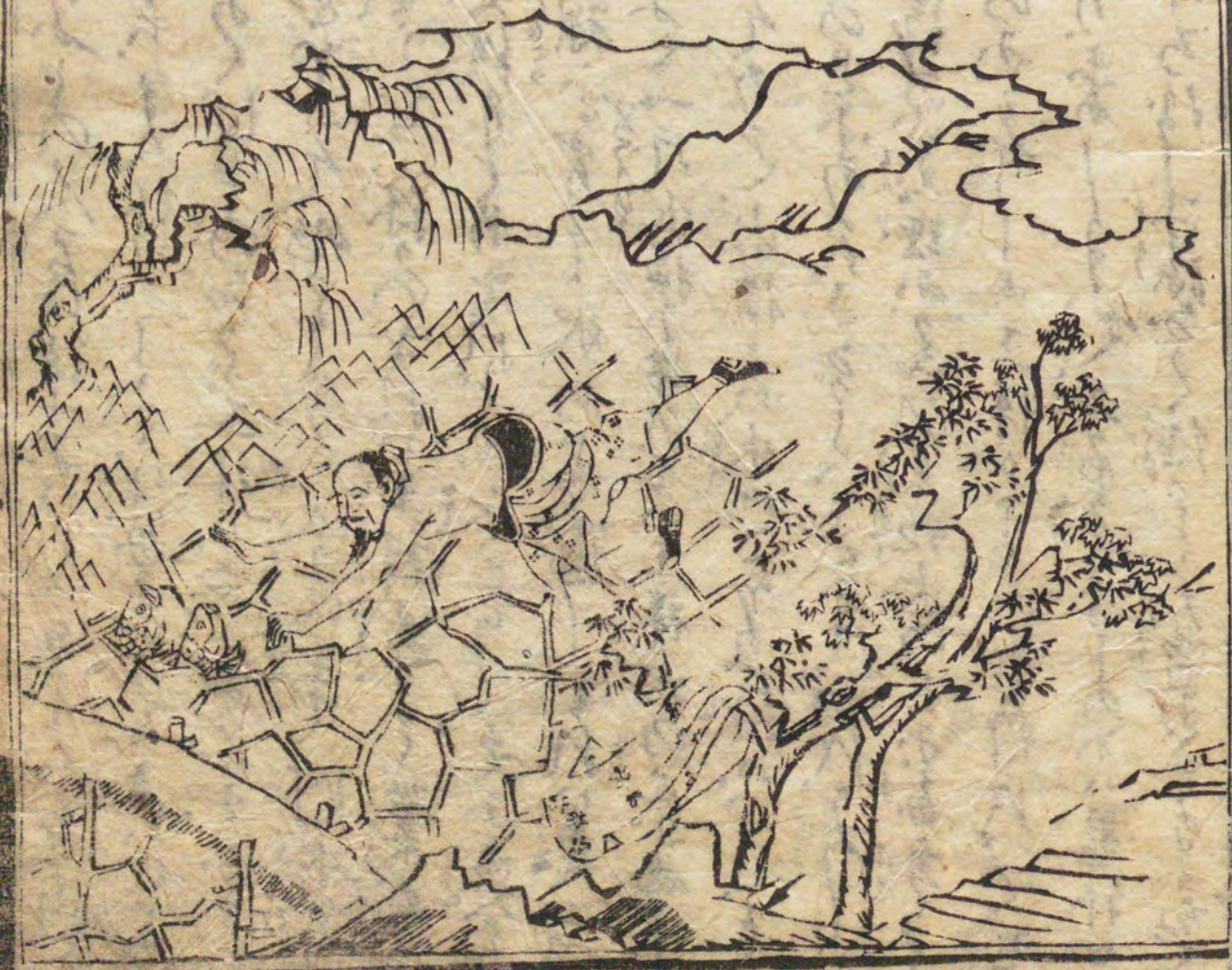


ばいまだまゝに思ひておゆひはくもさうがけたふびとハそ
 こころを思ひ心つんでたゞ思ひたゞこころを思ふてさうえ
 が事々心はひひの山よたさう代りて思ひたゞこころを思ふて
 さうえさうえ思ひたゞこころを思ふてさうえさうえ思ひたゞ
 の心をつづてさうえ思ひたゞこころを思ふてさうえ思ひたゞ
 けさうえ思ひたゞこころを思ふてさうえ思ひたゞこころを思ふ
 かり。さうえ思ひたゞこころを思ふてさうえ思ひたゞこころを思ふ
 情も。ねやこの思ひたゞこころを思ふてさうえ思ひたゞこころを思ふ
 たゞ。さうえ思ひたゞこころを思ふてさうえ思ひたゞこころを思ふ
 うさ。さうえ思ひたゞこころを思ふてさうえ思ひたゞこころを思ふ
 事代。さうえ思ひたゞこころを思ふてさうえ思ひたゞこころを思ふ
 くみ。さうえ思ひたゞこころを思ふてさうえ思ひたゞこころを思ふ
 まよ。

王祥

魏の代は人からいふにけさ
 一。ておふておふてさうえ
 事代。さうえ思ひたゞこころを思ふ
 たり。継母の事。いふに
 父。中。代。り。て。さうえ
 て。さうえ思ひたゞこころを思ふ
 こころを思ひたゞこころを思ふ
 く。さうえ思ひたゞこころを思ふ

至。今。河。水。上。に
 一。片。氷。が。換。



世に同みありては、けがとよみの人、其申ふ、わがをくひなりと
 こそ、王祥天下にふりて、まににやどく、徒母とよもあせど
 おうとさなりて、まみだわくじとのあが、王祥かやうあま、母り
 老行あまもの天下にふりて、あてたて、うく、今に至て、河水と
 とも、母冬のふむきふまうを、経いまれが、王祥其まう、業を
 舟とよみの川へゆきて、真流りてあまれども、氷とらて、更ふ奥に
 ゆる事を、せんてあく、裸ふりて、氷の上におゆ、まれ、奥ニ
 おり、せうと、其事、バく、つて、一斤、氷、摸ふゆ、と、王祥、氷の上におゆ
 ところ、わく、わりくと、ほの、世、て、あて、氷、横ふ、氷、こり、摸ふ、と、と
 へ、冬、ま、王祥、か、す、この、氷、の上、におる、さ、あ、い、と、みて、抱、け、う
 ところ、やう、あり、と、れ、心、て、然、る、老、行、の、心、天、理、か、ま、れ、其、氷、氷、の上、にお、あ、ま、う
 事、へ、末、代、の、人、れ、子、さ、う、もの、お、せ、う、の、王、祥、か、こ、く、老、行、に、つ、て、せ
 バ、世、を、ゆ、ぎ、わり、と、た、より、ま、あ、う、ま、く、又、る、老、行、の、心、鬼、林、心
 お、入、り、わ、く、氷、も、あ、か、氷、が、ろ、ぼ、う、子、孫、か、く、絶、え、と、天、道、め、く、の、心、あ、く

葵
順

後漢の代乃之汝南と云
 事^{コト}作^スまり又^{マタ}ふを^レれて母
 氏^{ウヂ}や一^{ヒト}ある其^{ソノ}出^デ王^{オウ}莽^{マウ}と云
 との乱^{ラン}氏^{ウヂ}に^テ一^{ヒト}天下^{テンカ}乱^{ラン}
 亂^{ラン}體^{タイ}あれは食^クに^テ之^レけ
 きは母^{ハハ}のため^{タメ}ふ事^{コト}ありと云
 りの^ノ人^{ヒト}なり

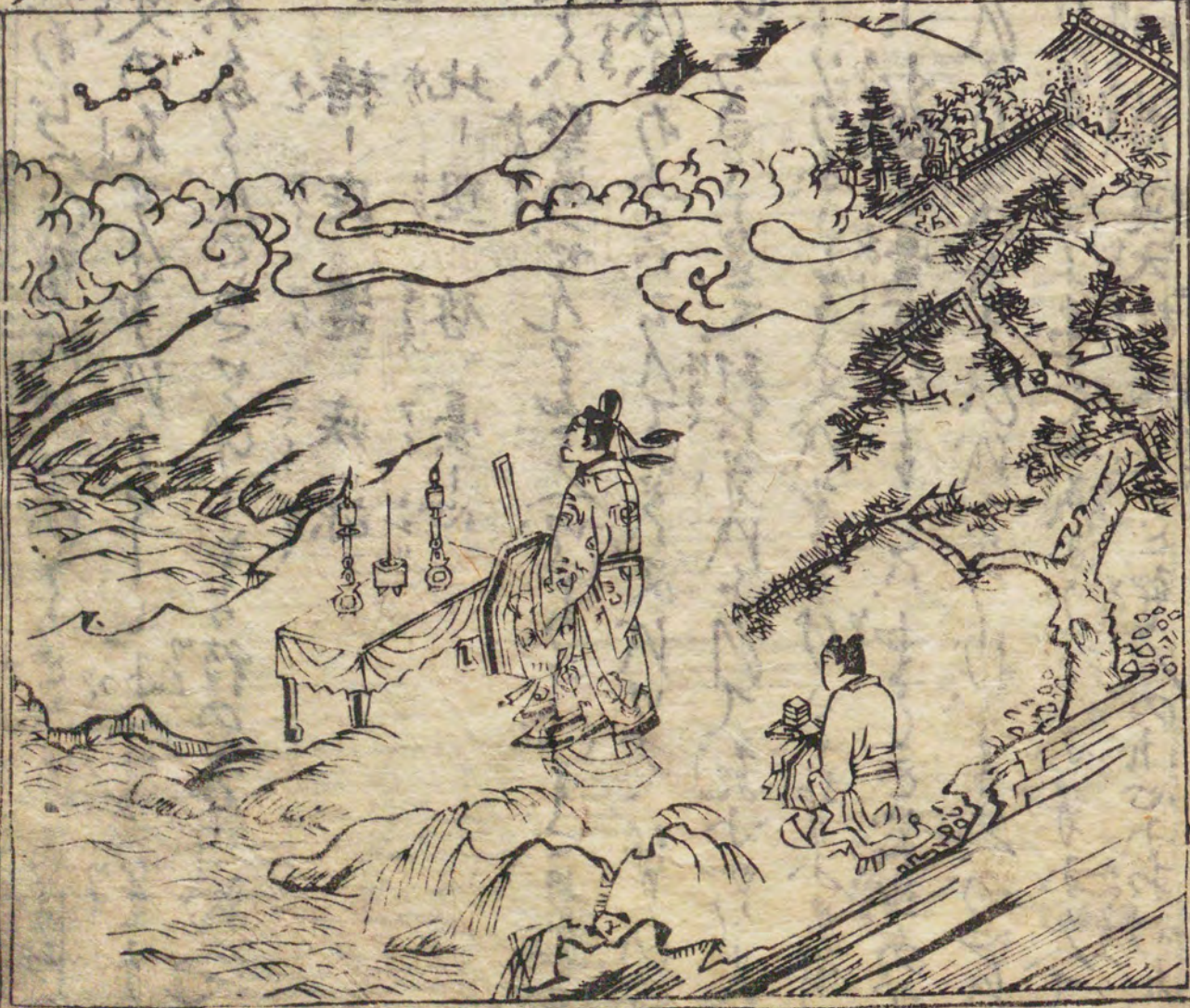
牛 ギウ	赤 シヤク	啼 オウテ	黒 クロ
米 ベイ	眉 メイ	飢 ウエ	樵 シヤウ
贈 オウタテ	知 チ	泪 ナタ	奉 ホウ
君 キミ	孝 カウ	滿 ミツ	親 シン
婦 カメ	頃 キョウ	衣 イ	園 エン



黒糖あんわやうんど。うぐんぱらと桑の蜜。あんわやうんと
母はなまじく子に啼亂洞衣よりと。さういふあつて母はこゝ
ろが種をかうむきと神祇ひたし心へ赤眉かうある代り
と云ふ。世もびへるす國の名をひたしものと蔡明が孝行代りんと
するといふ事。牛乳代りよ。はらいて母と。牛と桑と代り之と
は。どめん代りあつてえひもあらぬ。母と。ハスひもあらぬと
くらりき。これ天のわらんき。一蔡順母は。産一夫として桑
の蜜代り。あつて。すりき。き。えひもとき。とてい
ひ。して。き。き。えひ。我アへの母。けり。けり。けり。けり。母
おわん。親せき。我々。わん。わん。わん。わん。わん。わん。わん。
なれど。ば。孝行代り。えん。えん。えん。えん。えん。えん。えん。
ろ。ひ。えん。り。母。中。わん。えん。我。と。食。き。れ。ぞ。一。般。の。わん。づ。
其。う。と。城。か。人。の。もの。代。り。えん。えん。えん。えん。えん。えん。えん。
ひ。と。あ。えん。き。は。ひ。えん。えん。えん。えん。えん。えん。えん。

庚レ黔婁ノ

南齊の^{えき}時^{とき}人^{ひと}に^{えき}麻^あ凌^{りやう}
 縣^{けん}と^{けん}所^{しよ}の^{けん}官^{くわん}人^{ひと}
 なりて^{なり}げ^げ所^{しよ}ふ^ふゆ^ゆき^きけ^け
 ふ^ふい^いま^まて^て十^{じゆ}日^{にち}あ^あじ^じな^な
 ら^らる^るふ^ふ俄^がふ^ふじ^じか^かさ^さそ^そ
 ぶ^ぶあ^あき^きれ^れば^ば又^{また}の^の規^きの^のふ^ふ
 あ^あや^やと^とあ^あけ^けす^すて^てゆ^ゆり^り
 き^きれ^れハ^ハわ^わん^んの^のふ^ふと^とく^く又^{また}
 事^{こと}う^うぎ^ぎり^りと^と監^{かん}査^さ務^む
 所^{しよ}ふ^ふり^りあ^あけ^けば^ばふ^ふき^き
 ち^ちん^ん病^{びやう}人^{ひと}の^のふ^ふん^んけ^けな^な
 め^めて^てふ^ふふ^ふあ^あま^まく^くに^にが^が
 く^くハ^ハふ^ふう^うふ^ふふ^ふと^とふ^ふ



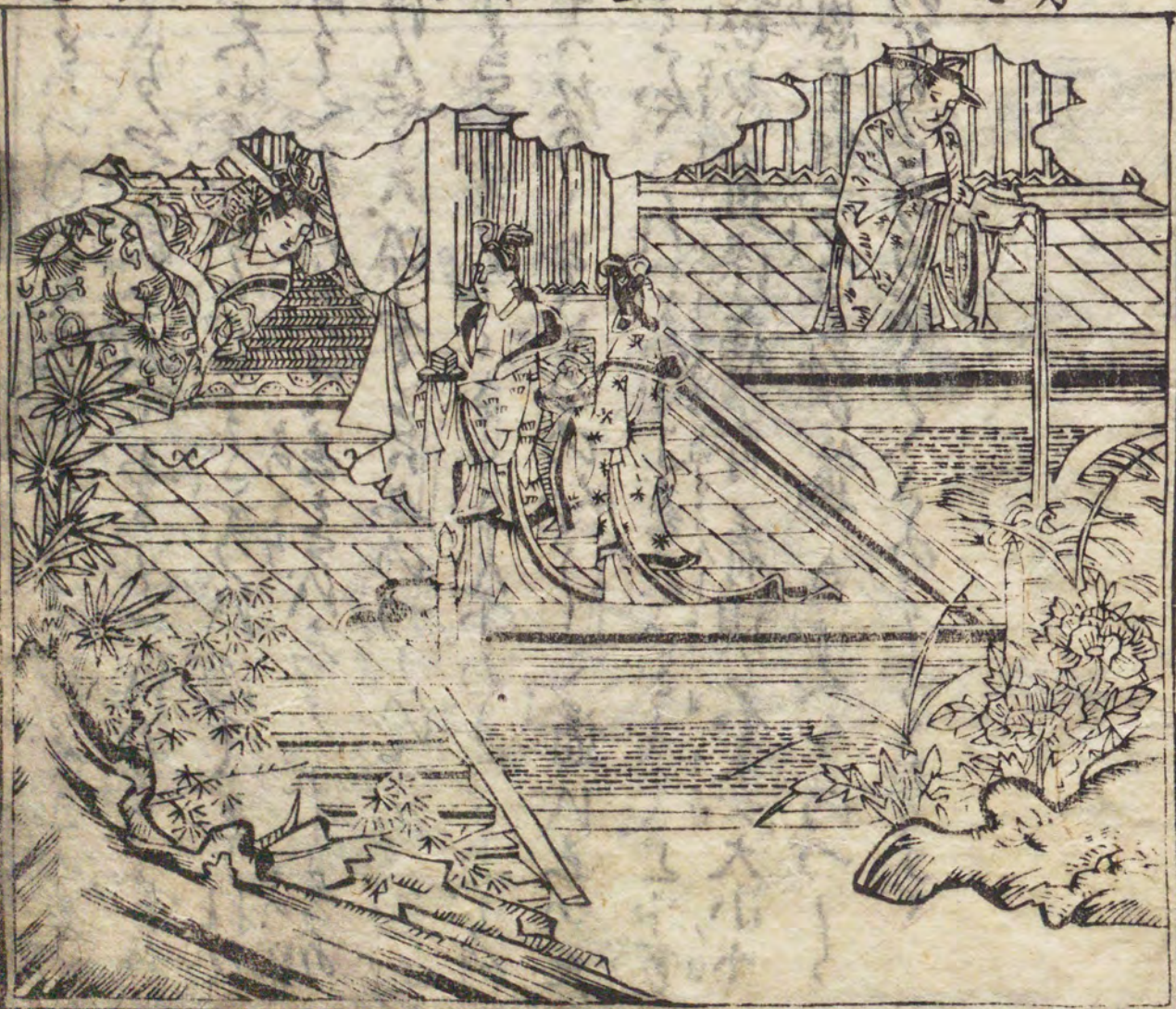
願イタリテ 到ケンニ
 將モツテ 縣ニ
 身ミタ 未ミタ
 代カヘ 旬シユ
 死シニ 月ツキ
 北ホク 椿ツバキ
 望サグ 庭テイ
 啓モフス 邁アラ
 憂アイ 疾イ
 心シン 涼スズシ

山
石

宋の詩人、東坡の才
子なり。家^{いぬ}畜^{あひ}を^あて
人^いを^あて^あて^あて^あ
となり

貴	貴	貴	貴
生	生	生	生
事	事	事	事
親	親	親	親
人	人	人	人

きんえん
考 天下のきんえん
吾官職たるを以て其の
んふかれきんとす



王褒

本像のとおおへしと本像はたへしと書ふ二年後之に
 せきれい水風吹あつて本像のうへに（破きり）それら
 何事とけ像のうへにきり

別本 爲慈母 形客 在月一
 奇言 法一子一姪 圃一卑 孝其親

本像別慈母はきりて六母のきりて本おきりて事く在月の
 身は形容をけ生て居りしうみすうとらぬい
 おうくうの心言は法子姪と世の中れ人のみうもの
 圃一卑 孝其親と六比丁蘭の孝行はきいてむとわりの池
 かくもやく孝行つてせよと行へる孝子之事親也事死如事
 生と先聖人の訓おわるもの

張孝礼
 兄あり世間きり人
 今あり母はきり
 あり家づくて親
 事とがきりなり

偶値緑林一見
 代惠云一瘦一肥
 人皆有兄才
 張氏古今稀

偶縁林児ありと書ふ
 張礼本のまはひろい
 けきり小盗人きり



ろや一の甲めて流れおわひつゝ縁林をみりりのや
 しくしきりつゝ事々思ふちこころいふやふし流れが事々思ふ
 代て瘦肥はみえ盗人とも流れはうらこころして事々思ふ
 りんといふ其時流れはみえ我老る母はおろろふいふ事々思ふ
 まつせはみえいふ流れはみえ母は食ひわくて去るうふ
 ありんといふいふりおわくもて思ふ事々思ふ盗人ゆりより
 流れゆりて母は食ひまてせは所へゆきまて思ふ流れは
 流きいて又わくよりゆきて我は流れよりゆく肥り食ひま
 りるる一我はゆりてせはみえけりこころいふ又我よりめ
 りりのやふくこころいふお花はわくきまり是はまて代りて
 瘦肥といふ瘦は座る肥はこころいふまて人皆見たりと人
 ありんといふ事々思ふのさるはわくきまりのさるはわく
 くらみさこころいふ流れは今掃きりたふと今とかがやけり
 ありんといふ事々思ふ盗人とは是はみえいふ事々思ふ

田真田廣田慶

け三人は兄弟なり又流
 ては流れはみえ
 けりてよりより
 樹て本わりそれ代
 と。よりよりけりて
 といふ其はみえより
 本心なりこころいふ
 けりてよりより
 海底紫珊瑚
 群芳総不
 春風花満
 兄才後同居



